

<vol.161 の記事>

- 活動紹介 2014 年度通常総会、シニア健康教室・貯筋相談開始！
- 浦スポ 23 年間の謎 その2 2002 年サッカー広場が受けた理由



6月のトピックス！

■2014 年度通常総会開催

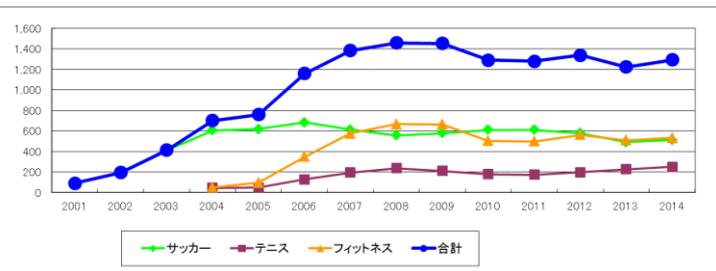
6月7日（土）、2014 年度通常総会が、クラブ事務所で開催されました。

総会には、子どものスポーツ支援プロジェクトの管理団体である(認定NPO)クラブネットの水上副理事長(日大教授) が来訪され、浦スポのこれまでのプロジェクトへの貢献について、戸村理事長に感謝状が授与されました。

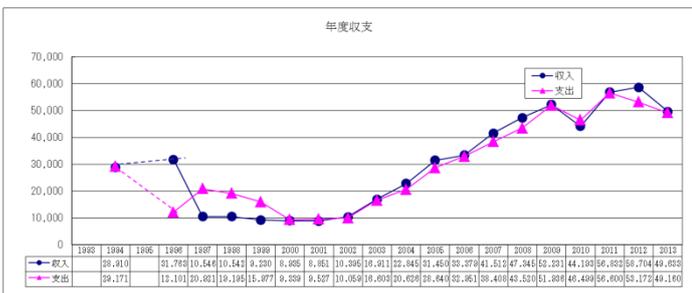


クラブ会員による小さな小さな積み重ねが、被災地のクラブの子ども達への支援になっていることが紹介されました。

サッカー選手部門の独立やU15 の休止、施設改修等の関係で一部のプログラムが実施できなかったことなどから昨年度当初は会員数が減少していましたが、プログラムの見直しやPRを進めた結果、じょじょに会員数が復調傾向にあることがわかりました（現在、およそ 1,300 人です）。



また、決算は、収入 49,633,025 円に対して、支出は 49,160,007 円と約 50 万円の黒字となりましたが、2013 年度から消費税支払いが始まったため（12 月までは会費に消費税を含んでいなかった）、これらの処理をすると約 100 万円の赤字決算となりました。



昨年度の大きな出来事として、消費税問題があり、互助組織として消費税は馴染まないというクラブの考えが認められず、税務署から過去5年間にさかのぼり徴収された（延滞税等を含み約 980 万円）結果、これまでのクラブの貯金がほとんどなくなってしまったことも報告されました。

また、2014 年度の計画も示され、文部科学省から拠点クラブを核としたエリアネットワークモデル事業の実施クラブとして、全国の7クラブの一つに選定され、取り組んでいくことも報告されました。

■シニア健康教室

貯筋運動を主体としているシニア健康教室は、毎週月曜日と水曜日、午前・午後の4クラスが活動しています。

写真は水曜日の午前中のクラス。どのクラスも、本太中学校の1Fにある教室をお借りしています。そう。。すぐ隣では、子ども達が授業をしている中です。休み時間にはお互い、あいさつを交わす姿も珍しくありません。地域と学校の共生が実現しています！



さて、シニア健康教室のメンバー有志が、新しい取り組みを始めます！

名付けて「何歳からでも始められる貯筋相談！」。浦和東部地区元気アップネットワークと連携し、地域で貯筋運動の効果や大切さを、自らの体験を伝えることで広げていこうというものです！ 皆さんで応援しましょう！



子どものスポーツ支援プロジェクト5月分は、90,300 円でした。ご協力ありがとうございました。

クラブが設立してから23年間、その間には、何度か運営の危機や大きな節目がありました。クラブの講習会などで事例報告をすると、「23年間続いたのはなぜですか？人数が増えたのはなぜですか？」そんな質問をしばしばいただきます。

今回は、その？の二つ目。サッカー広場について、お話ししたいと思います。

### ■サッカーで遊ぼう？

サッカー広場は、WCupのあった2002年の8月に始まりました。当時、人工芝になったばかりの駒場サブは、夕方に使う団体が、まだそれほどなく、今は懐かしい利用調整会議の中でも、周囲の団体の皆さんが、「浦スポの子ども達はグラウンド確保が大変だろうから、使っていいよ」という暖かい言葉をいただいていた。

当時、水曜日の午後～夕方に掛けて、ぽっかり空いていた枠をみて、うちのユースの十数名だけのために、この素晴らしいグラウンドを使うのでは申し訳ない。まして、中学生は5時には集まらないし・・・と話している中で、大学生コーチ達が、小学生にこの場を開放してあげたい！ ということでした。

さて悩んだのが、タイトル(テーマ)、対象学年、参加費とPR。近隣の少年団に迷惑をかけないように、チームはつくりたくない、自由な発想、多年代の交わりも大切、用具代や学生の謝金にするために500円/回くらいならば、負担も軽いね・・・などと喧々諤々。考え出したのが「サッカー広場」。キャッチコピーは「サッカーで遊ぼう！」。会議の中では、サッカーの指導者の中からは「サッカーで遊ぼうというのは理解できない」という言葉も聞かれました。

近隣にチラシをまいて、夏休みに無料体験会。4～6年生を対象として開催したところ、1回目30人、2回目60人、3回目90人とどんどん増えて、9月から有料にさせていただいても、あっという間に定員いっぱいとなりました。

右の写真は、第1回の時のものです。服装も学年もバラバラ(笑)



びっくりしたのは、私たち自身。「なんで、こんなに子ども達が集まるんだ？」

翌年度を迎えるまえには、もっと低学年向けもやってほしいという保護者や子ども達からの熱い声に押されて、1年生～6年生に拡大。やがて幼稚園生まで拡大しました。

平日の昼間から夕方ですから世話役の大人がそれほどいるわけではありません。これを運営していったのは、ほとんどが大学生。埼玉大学のサッカー部や、幼稚園生相手には、幼児保育を専攻している女の子も指導に加わりました。学生が大学の試験で不足する時には、ユースの会員が手伝うこともありました。

2年後には、3時～7時まで、1時間おきに学年を分けざるを得なくなり、各時間100人近い子ども達が集まってきました。今ではこの頃の子どもの大学生になり、コーチとして活躍してくれています。

### ■さんま(三間)を創れた

アンケートをとったり、いろいろな人に話をきいてわかってきたことがあります。

#### ■そこに行けば仲間がいる！

浦和の子ども達にサッカー好きが多いのは周知のことですが、平日の放課後、一緒にサッカーをやる仲間を探すのは大変だったようです。少人数クラスで同じクラスの仲間が減る中、習い事や塾・・・週末は、サッカーをやるのは少年団。。。という中で、広場にいけば、一緒にサッカーができるということも大きな要因であったと思います。

#### ■駒場サブという空間のありがたさ

人工芝なので、多少の雨でも大丈夫。駐車場があるので、保護者も安心。緑道などで自転車でも来られる。フェンスに囲まれていて安全。駒場サッカー場は、聖地！いろいろな十要因があったと思います。

#### ■子どもの時間

大人の都合ではなく、子どもの時間に合わせることができた。この時間、暇なのは子ども。でも、子どもだけではサッカー場は貸してくれない。そこを、大学生や、クラブが関わったことで、子どもの時間に活動を可能としたことも大きかったものと思います。

### ■クラブの多様性が可能にした

このような活動を可能にしたのは、大学生と大人と一緒に活動していたクラブという枠があったおかげです。なぜ、学生も大人もいたか・・・人数は不足がちでしたが、U15、U18、一般と多年代の活動を続けてきたことで、人材が繋がったおかげです。

また、大学生を見守ったクラブの生涯コースの多くは、保護者になろうという世代・・・サッカー選手の育成よりも、子ども達を思い切り遊ばせたい・・・という想いが強かったことも、大学生の自由な発想を妨げなかったのではないかと考えています。

特定の技術指導や戦術練習をすることがなかったので、幸い、廻りの少年団の指導者から大きな反対の声は聞こえてきませんでした。

中には、「サッカー広場では、サッカーを教えてくれない」というご意見をいただくことはありましたが、「教えないようにしていた」ので、繰り返し説明をさせていただきながら理解していただきました。

開始から12年が経ちました。広場のコーチは、毎年のように新しい学生が加わり、新たな気持ちで、子ども達との接し方に悩み、考え、いかに楽しく、たくさん汗をかいて身体を動かしていってもらえるか試行錯誤を続けています。この中から、教職に就いた者も少なくありません。そういった学生の経験の場になっていることも、広場の魅力の一つかもしれません。

### クラブからの情報発信ツール

■クラブニュース：過去のニュースはWEBに掲載

■facebook：

<http://www.facebook.com/urawasc>

クラブの昔の写真を公表しています。

■メルマガも配信始めました：

無料です。携帯からも簡単登録。

